平成２０年度

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）

（平成２１年１月調査）

平成２１年３月

鹿児島県教育委員会

平成２０年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要

1　調査の概要

(1)　調査の趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容について，全県的な調査を行い，客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより，各学校等での指導法改善の取組を支援し，児童生徒の基礎学力の向上を図る。

(2)　調査の重点

新学習指導要領で「知識・技能の習得とそれらの活用」「言語活動の充実」等の方向性が示される中，本県が全国学力・学習状況調査結果で同様の課題をもつことを踏まえ，解答を選択式から記述式に変えたり，図表を読み取って説明したりするなど，活用に関する問題をより多く取り入れた。

(3)　調査の実施日　…　平成２１年1月１５・１６日

(4)　調査の対象等（県内の全公立小・中学校が対象。調査人数は，欠席等により各教科，設問によって異なる。下記は最大値）

校　種	学　年	調　査　内　容	実施校	児童生徒数
小学校	第５学年	国語，社会，算数，理科	５８６校	１５，７２０人
中学校	第１学年	国語，社会，数学，理科，英語	２５３校	１５，２８２人
	第２学年	国語，社会，数学，理科，英語	２５４校	１６，１８８人

(5)　調査結果の活用

調査結果や指導法改善資料を載せた「結果概要」や学校・家庭で活用できる学習ガイド「鹿児島ベーシック」（中学生：基礎編），「鹿児島チャレンジ」（小学生：活用編）を作成し，県内すべての公立学校及び市町村教育委員会等へ配布するとともに，県のＷｅｂページにも掲載して，各学校の基礎学力定着の取組を支援する。

2　結果の概要

○　調査の重点により活用に関する問題を増やしたことで，全体的に平均通過率が下がった。全般的に，基本的な語彙・語句，事物・現象の理解など，知識に関してはある程度定着しているが，図表の読み取り，作図等による表現，実験の方法や処理など，技能の定着に関しては不十分である。

○　今回，記述式を増やしたことで，無解答の傾向が顕著に見られた。今後，全教科で言語活動の充実を進めることが大切であり，体験から感じ取ったことを表現したり，事実を正確に理解し伝達したりする学習，概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする学習など，思考力，判断力，表現力を総合的に育てていくための取組が必要である。

【国語】

学年	平均通過率（%）				
	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０
小５	８６．５	７８．７	７５．４	７０．８	７６．８
中１	７５．６	６５．２	７２．３	７２．９	６３．７
中２	８１．７	７０．６	７０．９	８１．７	６６．１

○　読み取った内容に自分の考えを加えて書く問題では，これまでの取組の成果が見られる。

○　中学校においては，十分な思考・判断を要する聞き取りや構成の力と，そのために必要となる語彙の拡充を図っていく必要がある。

【社会】

学年	平均通過率（%）				
	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０
小５	７７．５	７３．５	８１．３	７７．７	７２．０
中１	５９．３	５８．９	６３．３	７３．０	６５．６
中２	６３．３	６３．１	６６．９	７２．４	６２．６

○　社会的なものの見方，考え方を支えるための基本的な知識・理解が向上しつつある。

○　資料を効果的に活用し，社会的事象の特色や関連を解釈，説明する力が不十分であり，思考力，表現力を育てる取組が必要である。

【算数・数学】

学年	平均通過率（%）				
	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０
小５	８１．５	７２．６	７３．２	７９．１	７３．９
中１	６４．８	７２．３	６７．５	７３．９	６８．０
中２	６２．９	６６．８	６８．８	６８．８	６５．７

○　数の計算や図形の意味や性質について，繰り返しの演習による確実な定着が図られている。

○　言葉や式，図，グラフ等の読み取りが不十分であり，その相互の関連を筋道を立てて体系的に思考させる指導の充実が必要である。

【理科】

学年	平均通過率（%）				
	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０
小５	７６．９	７６．１	７２．８	７６．１	７３．７
中１	６３．９	６６．０	６４．８	６８．２	６７．３
中２	５６．９	６６．９	６３．４	５７．４	６２．６

○　実感しにくい物理的な現象や誤概念に陥りやすい生物の分類などの理解が改善されつつある。

○　基本的な観察・実験技能の習得が不十分である。学習した自然の事象と生活とのつながりについて理解を深めさせる手だてが必要である。

【英語】

学年	平均通過率（%）				
	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０
中１	(５８．８)	(５５．７)	６８．５	６９．１	７２．５
中２	(５９．５)	(５２．６)	５８．３	５９．０	６０．０

＊英語は，平成１８年度以降，採点の観点が異なる。
（　）のＨ１６，１７年度分は参考表示。

○　「聞く」「読む」「書く」領域について出題した。概要・要点を把握したり，内容の詳細を確認するなどの理解する力は定着してきている。

○　言語の使用場面を考慮し，適切な英文を作る力や単語等を正確に書く力に課題が残る。

目　　次

○　結果概要
○　本調査結果による指導法改善について　・・・・・・・・・・・・・・・　1
○　本調査結果による学校改善にむけて　・・・・・・・・・・・・・・・　2
○　平成２０年度「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方　・・・　3

Ⅰ　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅱ　各教科の結果
1　各教科の平均通過率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

2　各教科の内容・領域及び観点別の平均通過率
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２

3　各設問の分類と平均通過率
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

4　各受検者の正答数の分布
(1)　一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４２
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４４
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４５
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４６

5　地区別の平均通過率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７

本調査結果による指導法改善について

「基礎・基本」定着度調査は，児童生徒の基礎・基本の定着のため，客観的なデータに基づく定着度の把握及び指導法改善をねらいとしています。

各学校では，調査直後から，自校の結果を踏まえた補充指導や次年度の指導計画の見直し等の取組が行われていると思います。

さらに，調査票の問題や本資料を活用し，指導法改善を進めてください。

○　調査票

本調査で出題した問題は，児童生徒が身に付けてほしいと考える学力について，具体的に示したものです。

各学校においては，**今回の調査票の問題を授業の終末や単元末の評価場面などで活用し，**定着度の把握や個別指導に役立ててください。

○　特に定着を図りたい問題

本調査結果を受け，学力の中心的な内容，領域を取り上げました。これまでの調査において，定着度が高まってきている傾向がある一方で，現状が変わらないものも見られます。

特に，**改善が急務である問題を精選して，改善策を提案していますので，**これらを参考にして確実な定着を図るように努めてください。

○　各設問ごとの通過率

今回の調査結果で，特に通過率が５０％未満だった問題について明示しています。**各学校の実態と比較して，通過率の低かった内容を確認してください。**

また，**その内容については，指導計画等を重点化することにより，授業の指導法改善を図るとともに，演習や個別指導などの補充指導を充実させることが大切です。**

○　鹿児島ベーシック

鹿児島県教育委員会では，過去の調査のデータを踏まえ，学校や家庭の学習を支援する学習ガイド「鹿児島ベーシック」（中学校１，２年生用）を作成し，各学校に配布しています。（データ付）

これらの問題を授業で活用したり，解説を指導法改善の参考にしてください。なお，平成２１年度は，小学校５，６年生用の「鹿児島チャレンジ」を作成，配布する予定です。

本調査結果による学校改善にむけて

各学校は，調査結果を分析し，これまでの取組の成果，課題を検証するとともに，更なる改善策を立案して，それを速やかに実行することが大切です。

参　照
○「鹿児島の学力向上に向けて」（平成２０年３月：鹿児島県学力向上検証改善委員会）
　　Ｐ１７９～　＜４　本県における施策の検証，今後の改善策＞
○「学校におけるＰＤＣＡサイクルの手引き」（平成２０年１２月：鹿児島県教育委員会）
　　Ｐ１０～　＜（３）アクションプランの例（学力向上を例として）＞

今後の改善策（Ａ：アクション）について，「学校におけるＰＤＣＡサイクルの手引き」から抜粋したものを紹介します。

【各学校における具体策の例】

〔授業改善〕
・全教員の共通理解，教科を横断した授業研究，つまずきの原因分析
・他校の優れた実践と自校との比較
・習熟度別指導，補充指導等，個に応じた指導への取組
・確実な習得を図るための繰り返し学習
・確実な見届け（ポストテスト，漢字・計算力テスト）
・活用に関する問題例やワークシートの活用
・学習到達目標の提示
・テレビ会議システムを活用した研修，授業の導入

〔個別指導充実に向けた取組〕
・個人カルテの作成，個に応じた課題の提示
・ノート指導の工夫
・鹿児島ベーシックの活用や繰り返しの月末テスト
・放課後の活用

〔外部の人材活用〕
・幼小中高連携の取組
・学習支援員（学習ボランティア）の活用
・広く地域住民の意見を聴き，学校運営に反映させていくモニター制の導入

〔その他の取組〕
・校内の学習環境の工夫
・読書活動の推進，「朝読書」の時間に一部「リスニング」の時間の位置付け
・○○小学校国語・算数必達目標の設定

〔家庭学習に関する取組〕
・学習の手引き作成
・授業と連動した家庭学習内容の指示
・家庭学習ノートの工夫（単なる漢字練習帳などでないもの）
・１日１０分の音読を継続（特に，国語，英語）
・○月○日からの２週間を「課題」重点指導週間として設定
・課題部分をピックアップした家庭学習用プリントの作成
・家庭学習支援教室等の工夫
・保護者が参加する「学力向上フォーラム」「家庭学習セミナー」等の開催

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方

本書は，鹿児島県教育委員会が各市町村教育委員会及び各小・中学校の協力を得て，平成２１年１月に実施した平成２０年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要です。

1　本書の構成について

本書は，次のような構成になっています。

Ⅰ　調査の概要
Ⅱ　各教科の結果概要
　1　各教科の平均通過率（県全体）
　2　各教科の内容・領域別及び観点別の平均通過率（県全体）
　3　各設問の分類と平均通過率
　4　各受検者の正答数の分布
　5　地区別の平均通過率

2　本書の活用について

○　**調査の目的や実施の概要を知りたいとき**

「Ⅰ　調査の概要」をご覧ください。

調査の趣旨・目的や実施の対象，実施方法等について説明してあります。

○　**各教科の定着状況の概要を知りたいとき**

「Ⅱ　各教科の結果概要（1　各教科の平均通過率）」をご覧ください。

小・中学校とも実施した教科の通過率の平均を，学年ごとに示してあります。

なお，学年ごとの平均通過率や教科別の平均通過率を比較するときには，設問内容が異なること等，単純な比較ができないことに十分留意してください。

○　**各教科の定着状況を内容・領域別及び観点別に詳しく知りたいとき**

「Ⅱ　各教科の結果概要（2　各教科の内容・領域別，観点別の平均通過率）及び（5　地区別の平均通過率）」をご覧ください。

小・中学校とも実施した教科の各設問を内容・領域別及び観点別に分類し，それぞれ分類ごとに通過率の平均を示してあります。なお，地区別の平均通過率についても，内容・領域別及び観点別に示してありますので参考にしてください。

○　**各教科の設問毎の分類と平均通過率を知りたいとき**

「Ⅱ　各教科の結果概要（3　各設問の分類と平均通過率）」をご覧ください。

小・中学校とも実施した教科の各設問の内容・領域，観点の位置付けを分類し，それぞれの平均通過率を示してあります。

○　**各受検者の正答数分布を知りたいとき**

「Ⅱ　各教科の結果概要（4　各受検者の正答数の分布）」をご覧ください。

小・中学校とも実施した教科の全設問数中，何問正答したかの受検者の割合を度数分布で示してあります。基礎･基本の定着状況としてピークが７割ラインの右側にくるのがあるべき姿です。

3　本書に使われている用語について

○　**「通過率」**

各設問ごとに正答した児童生徒の数を調査実施児童生徒数で除したものを「通過率」とし，分類上，その平均をとったものを「平均通過率」としています。

○　**「学力調査」**

ペーパーテストにより，「基礎・基本」の定着状況を調査したものです。小学校は国語，社会，算数，理科の４教科，中学校は国語，社会，数学，理科，英語の５教科を実施しました。

Ⅰ　調査の概要

1　趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容について，全県的な調査を行い，客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより，各学校等での指導法改善の取組を支援し，児童生徒の基礎学力の向上を図る。

2　調査の対象学年，学級等

(1)　県内すべての小学校第５学年，中学校第１，２学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし，複式学級を有する学校においては，履修していない内容を調査から除外して実施する。なお，小・中学校における特別支援学級の児童生徒については，該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。

(2)　特別支援学校においては，該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学 校 種	学　年	実 施 校	調査児童生徒数
小学校（小学部）	第５学年	５８６校	１５，７２０人
中学校（中学部）	第１学年	２５３校	１５，２８２人
	第２学年	２５４校	１６，１８８人

＊　調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

＊　調査人数は，欠席等により各教科，設問によって異なる。（上記は最大値を示す。）

3　調査の内容

学力調査

ペーパーテストにより，調査対象教科の基礎学力の定着状況（当該学年の１２月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校（小学部）】 第５学年　　・・・　国語，社会，算数，理科

【中学校（中学部）】 第１，２学年　・・・　国語，社会，数学，理科，英語

4　調査の実施時間

学力調査　小学校(小学部)　　４５分（調査票の配布・説明等５分，調査時間４０分）

　　中学校(中学部)　　５０分（調査票の配布・説明等５分，調査時間４５分）

5　調査の実施日

平成２１年1月１５・１６日

6　調査の採点及び結果の集計・分析

(1)　各学校は，自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い，当該市町村教育委員会へ報告する。自校の調査結果については，保護者に対して説明責任を果たすとともに，今後の指導方法改善に生かす。

(2)　各市町村教育委員会は，管下の学校の調査結果を集計し，県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については，自市町村の基礎学力の定着への取組に生かす。

(3)　県教育委員会は，調査結果を集計・分析し，県全体の「基礎・基本」の定着状況について公表するとともに，指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し，各学校に配布することにより，各学校の基礎学力定着への取組を支援する。